

第9章 体育

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につい ての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
進んで楽しく運動をしようとする。また，身近な生活における健康・安全に関心を持ち，進んで学習に取り組もうとする。	運動の課題の解決を目指して，活動の仕方を考え，工夫している。また，身近な生活における健康や安全について，課題の解決を目指して考え，判断している。	運動の楽しさや喜びを味わうために必要な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全に関して，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し，知識を身に付けている。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

体育科においては，学習指導要領の内容を以下のように内容のまとめりとして，これらごとに評価規準を作成した。

< 運動領域 >

第1学年及び第2学年：「A 基本の運動」，「B ゲーム」

第3学年及び第4学年：「A 基本の運動」，「B ゲーム」，「C 器械運動」，「D 水泳」，「E 表現運動」

第5学年及び第6学年：「A 体づくり運動」，「B 器械運動」，「C 陸上運動」，「D 水泳」，「E ボール運動」，「F 表現運動」

< 保健領域 >

第3学年：「F 保健の（1）毎日の生活と健康」

第4学年：「F 保健の（2）育ちゆく体とわたし」

第5学年：「G 保健の（1）けがの防止」，「G 保健の（2）心の健康」

第6学年：「G 保健の（2）病気の予防」

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

< 運動領域 >

第1学年及び第2学年

1 学年目標

(1) 基本の運動及びゲームを簡単な決まりや活動を工夫して楽しくできるようにするとともに，体力を養う。

(2) だれとでも仲よくし，健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

2 第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
だれとでも仲よく，健康・安全に留意して，進んで楽しく運動をしようとする。	基本の運動やゲームの仕方を考え，工夫している。	基本の運動やゲームを楽しむ行うために必要な動きを身に付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 基本の運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 走・跳の運動遊び，力試しの運動遊び，器械・器具を使つての運動遊び，用具を操作する運動遊び，水遊び及び表現リズム遊びについて，仲間との競争，いろいろな課題への取組などを楽しく行うとともに，体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きができるようにする。
- (2) 順番やきまりを守つて仲よく運動をしたり，運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けたり，水遊びの心得を守つたりすることができるようにする。
- (3) 競争や運動の仕方を知り，活動を工夫することができるようにする。

【「A 基本の運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
だれとでも仲よく基本の運動としてのいろいろな運動遊びに進んで取り組もうとする。また，順番やきまりを守つて仲よく運動をしようしたり，運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けながら運動をしたりしようとする。	基本の運動としてのいろいろな運動遊びの仕方を知り，活動を工夫している。	基本の運動としてのいろいろな運動遊びを楽しむための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「A 基本の運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・基本の運動としての易しい運動遊びを楽しむための活動や競争に進んで取り組もうとする。 ・運動の順番を守つたり，固定施設，器械・器具などの使い方のきまりや運動の仕方のきまりを守つたりして，仲よく運動をしようとする。 ・固定施設，器械・器具などの安全を確かめようとする。 ・水泳プールのきまりや水遊びの心得を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の運動としての易しい運動遊びが楽しくできるように，仲間との競争の仕方やいろいろな運動遊びの行い方を知っている。 ・競争や運動が楽しくできるように運動遊びの行い方を考えたり決めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具を使つての運動遊びでは，鉄棒，平均台，跳び箱などを使って，自分の体をいろいろな動かすことができる。 ・水遊びでは，水中を歩いたり，走つたりすることや水に顔をつけたり，水中で目を開けたり，息を吐いたり，水に浮いたりすることができる。

(2)「B ゲーム」

【学習指導要領の内容】

- (1) ボールゲーム及び鬼遊びについて，易しい遊び方を身に付け，みんなでゲームが楽しくできるようにする。
- (2) 規則を守り，互いに仲よくゲームを行い，勝敗を素直に認めることができるようにする。
- (3) ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。

【「B ゲーム」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
だれとでも仲よくゲームに進んで取り組もうとする。また，互いに協力してゲームを行い，勝敗を素直に認めようとする。役割を分担し，安全に気を付けて運動をしようとする。	ゲームの仕方を考え，簡単な規則を工夫している。	ボールゲームや鬼遊びを楽しむための易しい遊び方を身に付けている。

【「B ゲーム」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいゲームの遊び方ができるように、約束を決めてみんなと仲よく進んでゲームをしようとする。 ・それぞれの役割を分担してゲームの準備や後始末をしようとする。 ・規則を守り、勝敗を素直に認めようとする。 ・ゲームを行う場所の安全に気を付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームが楽しくできるように簡単な活動の場を選んでいる。 ・ゲームが楽しくできるように得点の方法を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームでは、いろいろなボールで、ボールをつく、転がす、投げる、当てる、捕らえる、蹴る、止めるなどをして、易しい遊び方でゲームができる。 ・鬼遊びでは、追いかける、逃げるなどをして、易しい遊びができる。

第3学年及び第4学年

1 学年目標

- (1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して運動を楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体力を養う。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

2 第3学年及び第4学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>進んで楽しく運動をしようとする。また、約束やきまりを守り、互いに協力し、健康・安全に留意して運動をしようとする。</p>	<p>運動の特性に応じた課題をもち、活動の仕方を考え、工夫している。</p>	<p>運動の特性に応じた技能を身に付けている。</p>

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりとごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 基本の運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 走・跳の運動、力試しの運動、器械・器具を使っての運動、用具を操作する運動及び浮く・泳ぐ運動について、仲間との競争、いろいろな課題への取組などを楽しく行うとともに、体の基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きができるようにする。
- (2) 順番やきまりを守って仲よく運動をしたり、運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けたり、浮く・泳ぐ運動の心得を守ったりすることができるようにする。
- (3) 競争や運動の仕方の課題をもち、運動の楽しさを求めて活動を工夫することができるようにする。

【「A 基本の運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>基本の運動としてのいろいろな運動に進んで楽しく取り組もうとする。また、順番やきまりを守って仲よく運動をしようしたり、運動をする場所や器械・器具の安全に気を付けながら運動をしたりしようとする。</p>	<p>基本の運動としてのいろいろな運動の課題をもち、活動を工夫している。</p>	<p>基本の運動としてのいろいろな運動を楽しく行うための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きを身に付けている。</p>

【「A 基本の運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・基本の運動としての易しい運動を楽しむための活動や競争に進んで取り組もうとする。 ・運動の順番を守ったり、器械・器具の準備や後始末についてのきまりや運動の仕方のきまりを守ったりして、仲よく運動をしようとする。 ・運動をする場所の整備をするなど安全を確かめようとする。 ・水泳プールのきまりや浮く・泳ぐ運動の心得を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の運動としての易しい運動が楽しくできるように、自分の力に合った競争や運動の仕方を知っている。 ・競争や運動を楽しむための活動や場を選んだり考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具を操作する運動では、なわ、輪などの各種の用具を素早く操作したり、用具の動きに合わせて自分の体をいろいろに動かしたりすることができる。 ・浮く・泳ぐ運動では、水にもぐったり浮いたり、補助具を使って泳いだりすることができる。

(2)「B ゲーム」

【学習指導要領の内容】

- (1) バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム及びベースボール型ゲームについて、友達と規則を工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。
- (2) 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。
- (3) チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。

【「B ゲーム」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>みんなとゲームに進んで楽しく取り組もうとする。また、互いに役割を分担し、協力して練習やゲームを行うとともに、勝敗を素直に認めようとする。さらに、安全に気を付けて運動をしようとする。</p>	<p>チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫している。</p>	<p>バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム及びベースボール型ゲームを楽しく行うための簡単な技能を身に付けている。</p>

【「B ゲーム」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの楽しさを味わうために、チームの力に合った課題をもって進んで練習やゲームに取り組もうとする。 ・友達と教え合い励まし合って運動をしたり、協力して用具の準備や後始末をしたりしようとする。 ・規則を守り、審判の判定や勝敗を素直に認めようとする。 ・ゲームをする場所や用具の安全を確かめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームが楽しくなるようにルールや活動の場を選んだり考えたりしている。 ・ゲームが楽しくなるようにチームで簡単な作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲームでは、空いているところに動いてパスをしたり、ドリブルをしたり、シュートをしたりするなどの簡単な技能を身に付けてゲームができる。 ・ベースボール型ゲームでは、ボールを打ったり、捕ったり、投げたりするなどの簡単な技能を身に付けてゲームができる。

(3) 「C 器械運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、技に取り組んだり、その技ができるようにしたりする。
 - ア マット運動及び鉄棒運動について、技に取り組んだり、できる技を繰り返したり、組み合わせたりすること。
 - イ 跳び箱運動について、支持跳び越しをすること。
- (2) 互いに励まし合って運動をしたり、器械・器具の使用の仕方を工夫して安全に運動をしたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した技に取り組み、その技ができるようになるための活動を工夫することができるようにする。

【「C 器械運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械運動に進んで楽しく取り組もうとする。また、互いに励まし合って運動をしたり、器械・器具の安全に気を付けて運動をしたりしようとする。	自分の力に合った課題をもち、練習の仕方を工夫している。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた簡単な技能を身に付けている。

【「C 器械運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の楽しさを味わうために、自分の力に合った課題をもって進んで取り組もうとする。 ・友達と励まし合って運動をしたり、協力して器械・器具の準備・片付けをしたりしようとする。 ・約束を守って安全に気を付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選んでいる。 ・学習カードや補助具を活用して、練習の場を選んでいる。 ・技のポイントについて考え、自分のめあてがもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動、鉄棒運動については、自分の力に合った新しい技に取り組んだり、今できる技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。 ・跳び箱運動については、新しい技に取り組んだり、自分の力に合った技で簡単な支持跳び越しができる。 ・これらの運動について技に関連した易しい運動遊びができる。

(4) 「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもち、クロール及び平泳ぎの技能を身に付け、ある程度続けて泳ぐことができるようにする。
- (2) 互いに協力して水泳をしたり、水泳プールのきまりや水泳の心得を守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、活動を工夫することができるようにする。

【「D 水泳」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
水泳に進んで楽しく取り組もうとする。また、協力し合ったり、水泳プールのきまりや水泳の心得を守ったりして、安全に水泳をしようとする。	自分の力に合った課題をもち、練習の仕方を工夫している。	クロール及び平泳ぎについて、ある程度続けて泳ぐための簡単な技能を身に付けている。

【「D 水泳」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> 泳ぐことの楽しさを味わうために、自分の力に合った課題をもって進んで取り組もうとする。 友達と励まし合ったり、補助し合ったりするなど協力して練習をしようとする。 プールサイドを走らない、準備運動を行うなど、水泳プールのきまりや水泳の心得を守り、安全に気を付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 泳ぎ方や目標距離など、自分の力に合った課題を選んでいる。 学習カードや補助具を活用して泳ぎの技能のポイントが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クロールについて、呼吸をしながらある程度続けて泳ぐことができる。 平泳ぎについて、呼吸をしながらある程度続けて泳ぐことができる。

(5)「E 表現運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 表現及びリズムダンスについて、身近な生活の中から題材を選んでその主な特徴をとらえて表現したり、軽快なリズムに乗って踊ったりして、みんなで踊りを楽しむことができるようにする。
- (2) 互いのよさを認め合い、協力して練習や発表ができるようにする。
- (3) 表したい内容にふさわしい動きやリズムに乗って踊るための活動を工夫することができるようにする。

【「E 表現運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>表現運動に進んで楽しく取り組もうとする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり、見せ合いをしたりしようとする。</p>	<p>表したい内容にふさわしい動きやリズムに乗って踊るための活動を工夫している。</p>	<p>表現やリズムダンスで、身近な生活の中から題材を選んでその主な特徴や感じをとらえて表現したり、軽快なリズムに乗って踊ったりして、みんなで踊りを楽しむことができる。</p>

【「E 表現運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> 感じを込めて踊ったり、リズムに乗って踊ったりするなど、友達と気持ちを合わせて進んで楽しく踊ろうとする。 友達の動きや活動のよいところを見つけ、認め合おうとする。 互いに協力して練習したり、簡単な見せ合いや交流の場をつくったりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った題材やリズムを選んでいる。 楽しく踊るための動きや活動の仕方を見つけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現では、身近な生活や空想の世界などから選んだ題材で、その主な特徴や感じをとらえて即興的に表現したり、表したい感じをひと流れの動きにして表現したりすることができる。 リズムダンスでは、軽快なロックやサンバなどのリズムの音楽に乗って全身で弾んで踊ったり、友達と自由にかかわり合ったりして楽しく踊ることができる。

第5学年及び第6学年

1 学年目標

- (1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え、体力を高める。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

2 第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
進んで運動の楽しさや喜びを求めるとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じた自己の課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に応じた課題を理解して、運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の体に関心をもち、ねらいをもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動
 - (ア) 自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動をすること。
 - イ 体力を高める運動
 - (ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動をすること。
 - (イ) 力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動をすること。
- (2) 互いに協力して、運動ができるようにする。
- (3) 自己の体力や体の状態に応じて、体ほぐしの行い方や体力の高め方を工夫することができるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
自分の体に関心をもち、体ほぐしの運動や体力を高める運動に進んで取り組もうとする。また、互いに協力し、安全に気を付けて運動をしようとする。	体ほぐしの行い方や体力の高め方を考えたり、自己の体や体力の状態に応じて、その行い方を工夫している。また、ねらいをもってそれにふさわしい運動を工夫している。	体力を高める運動のねらいに合った動き（動作）ができる。

【「A 体づくり運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを分かって進んで取り組もうとする。 ・計画的に体力を高めていくよさを分かって進んで取り組もうとする。 ・運動のねらいが達成できるように、互いの体の状態に気付こうとしたり、計測・記録などの役割を分担しようとする。 ・互いに励まし合ったり、力を合わせたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手軽な運動や律動的な運動が体ほぐしのねらいにどのように役立つか考えたり、自己の体の状態に合わせた体ほぐしの行い方を考えている。 ・意図的・計画的に行う運動が、体の柔らかさや巧みな動き、力強い動きや動きを持続する能力を高めることに役立つことが分かっている。 ・ねらいに合った運動を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の柔らかさや巧みな動き、力強い動きや動きを持続する能力を高める運動ができる。

・運動をする場や用具などの安全に気を付けようとする。		
----------------------------	--	--

なお、「体ほぐしの運動」は、技能の獲得・向上を直接のねらいとするものではないことから、運動の技能の観点から削除している。

(2) 「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、技に取り組んだり、その技ができるようにしたりする。
 - ア マット運動及び鉄棒運動について、新しい技に取り組んだり、その技を加えてそれらを繰り返したり、組み合わせたりすること。
 - イ 跳び箱運動について、安定した動作での支持跳び越しをすること。
- (2) 互いに協力して運動をしたり、器械・器具の使用の仕方を工夫して安全に運動をしたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した技に取り組み、その技ができるようになるための課題の解決の仕方を工夫することができるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、互いに協力して運動をしたり、器械・器具の安全な使い方に注意して運動をしたりしようとする。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた技能を身に付けている。

【「B 器械運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、器械運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・友達と励まし合って仲よく運動をしたり、協力して器械・器具の準備・片付けをしたりしようとする。 ・試技の開始前や終了後においても安全に気を付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選んでいる。 ・学習カードや補助具を活用して、自分に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。 ・技のポイントや自分の課題について考え、自分のめあてがもてている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動及び鉄棒運動については、自分の力に合った今できる技や新しい技に取り組み、できるようになったら、その技も加えて繰り返したり組み合わせたりすることができる。 ・跳び箱運動については、自分の力に合った新しい技に取り組んだり、安定した動作で今できる技の支持跳び越しができる。

(3) 「C 陸上運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、競争したり、記録を高めたりすることができるようにする。
 - ア 短距離走・リレー及びハードル走
 - イ 走り幅跳び及び走り高跳び
- (2) 互いに協力して安全に練習や競争ができるようにするとともに、競争では、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題を決め、課題の解決の仕方を工夫することができるようにする。

【「C 陸上運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
陸上運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに、安全に留意して運動をしようとする。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びについて、競争したり、記録を高めたりするための技能を身に付けている。

【「C 陸上運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、競争の楽しさや目標記録に挑戦する楽しさや喜びを味わおうとする。 計時や記録などの役割を分担し、互いに協力して運動をしようとする。 ルールを守り、勝敗に対して公正な態度をとろうとする。 走路や跳躍場、器具などの安全を確かめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 競争を楽しむ場では、ルールや競争の仕方、作戦を決めている。 自分の力に合った目標記録や課題の解決の仕方が分かっている。 学習カードやビデオなどを使って、練習方法を選んだり考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「速く走る」「高く跳ぶ」「遠くへ跳ぶ」など、それぞれの運動の特性に応じた技能を身に付け、ルールを定めて競争したり、自分の目標記録に挑戦したりすることができる。

(4)「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 自己の能力に適した課題をもち、クロール及び平泳ぎの技能を身に付け、続けて長く泳ぐことができるようにする。
- (2) 互いに協力して水泳をしたり、水泳プールのきまりや水泳の心得を守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題を決め、課題の解決の仕方を工夫することができるようにする。

【「D 水泳」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
水泳の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、協力し合ったり、水泳プールのきまりや水泳の心得を守ったりして、安全に水泳をしようとする。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	クロール及び平泳ぎについて、続けて長く泳ぐための技能を身に付けている。

【「D 水泳」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に合った課題をもって進んで取り組み、泳ぐことの楽しさや喜びを味わおうとする。 友達と励まし合い、教え合いながら協力して練習をしようとする。 自分の体の調子を確かめるとともに、プールサイドを走らない、準備運動を行うなど、 	<ul style="list-style-type: none"> 泳ぎ方や目標距離など自分に合った課題をもち、その解決に向けて練習の仕方を選んでいる。 学習カードや補助具を活用して、自分のできそうな泳ぎ方をできるようにするための練習方法や泳ぎの技能のポイントが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> クロールについて、呼吸をしながら続けて長く泳ぐことができる。 平泳ぎについて、呼吸をしながら続けて長く泳ぐことができる。

水泳プールのきまりや水泳の心得を守り，安全に気を付けようとする。		
----------------------------------	--	--

(5)「E ボール運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) チームに適した課題をもって次の運動を行い，その技能を身に付け，簡単な作戦を生かしてゲームができるようにする。
 - ア バスケットボール
 - イ サッカー
 - ウ ソフトボール又はソフトバレーボール
- (2) 互いに協力し，役割を分担して練習やゲームができるようにする。また，勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。
- (3) 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり，ルールを工夫したりすることができるようにする。

【「E ボール運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
友達とともに，ボール運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また，勝敗に対して正しい態度をとろうとするとともに，安全に練習やゲームをしようとする。	チームの特徴を知り，作戦を立てたり，ルールを工夫したりしている。	バスケットボール，サッカー，ソフトボール又はソフトバレーボールについて，簡単な作戦を生かしてゲームをするための技能を身に付けている。

【「E ボール運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ チームに適した課題をもって，練習やゲームに進んで取り組もうとする。 ・ ルール・マナーを守り，審判の判定に従おうとする。 ・ 友達と協力し合い，練習の場をつくらうとしたり，用具の準備をしたりしようとする。 ・ 運動をする場や用具の安全を確かめようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のチームのよさを生かした作戦を立てている。 ・ 作戦を成功させるための練習を選んでいる。 ・ 人数やコートの大ささなどのルールを選んだり考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスケットボールやサッカーでは，状況に応じたパスやドリブル，シュートなどの技能を身に付けてゲームができる。 ・ ソフトボールでは，状況に応じたバッティングや走塁，捕球や送球の技能を身に付けてゲームができる。 ・ ソフトバレーボールでは，ボールを両手や片手で操作し，相手コートに空いているところにボールを落とすなど，状況に応じた技能を身に付けてゲームができる。

(6)「F 表現運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 表現及びフォークダンスについて，身近な生活の中から題材を選んで動きに変化と起伏を付けて表現したり，地域の踊りや世界の踊りを身に付けたりして，みんなで踊りを楽しむことができるようにする。また，友達やグループの表現や動きのよさが分かるようにする。
- (2) 互いのよさを認め合い，協力して練習や発表ができるようにする。
- (3) 自分やグループの特徴を生かした表現や踊りに取り組んだり，練習や発表の仕方を工夫したりすることができるようにする。

【「 F 表現運動」の評価規準】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
表現運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり、発表をしたりしようとする。	自分やグループの特徴を生かした表現や踊りに取り組んだり、練習や発表の仕方を工夫したりしている。	表現やフォークダンスで、身近な生活の中から題材を選んで動きに変化と起伏をつけて表現したり、地域の踊りや世界の踊りを身に付けて踊ったりして、みんなで踊りを楽しむことができる。

【「 F 表現運動」の評価規準の具体例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 感じを込めて踊る，地域や世界の踊りを仲よく踊るなど，友達と気持ちを合わせて進んで楽しく踊ろうとする。 ・ 友達の動きや活動のよいところを見つけ，認め合おうとする。 ・ 互いに協力して練習したり，交流や発表をしたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分やグループの力に合った題材や踊りを選び，元気いっぱいに踊る，コミカルに踊るなど，自分や自分たちの持ち味を生かすような課題に取り組んでいる。 ・ 課題の解決のための活動の場を決めたり，動きを教え合ったりして，練習や発表の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現では，身近な生活の中から選んだ題材で，表したい感じを強調するように動きに変化と起伏をつけたり，簡単な群（集団）の動きを工夫したりして表現することができる。 ・ フォークダンスでは，地域で伝承されてきた踊りや世界の代表的なフォークダンスを身に付け，みんなで楽しくかわり合って踊ることができる。

< 保健領域 >

第3学年

1 学年目標

(1) 健康な生活について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第3学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
毎日の生活と健康とのかかわりについて関心をもち、自ら健康的な生活を送るため、進んで学習に取り組もうとする。	毎日の生活と健康とのかかわりについて、課題の解決を目指して考え、判断している。	毎日の生活と健康とのかかわりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

「F 保健の(1) 毎日の生活と健康」

【学習指導要領の内容】

ア 毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。

イ 毎日を健康に過ごすためには、体の清潔を保つことや明るさ、換気などの生活環境を整えること。

【「F 保健の(1) 毎日の生活と健康」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
一日の生活の仕方、身の回りの清潔や生活環境、学校の保健活動について、進んで課題を見つけたり、課題について調べたり、わかったことを発表したり、友達の発表を真剣に聞いたりしようとしている。	一日の生活の仕方、身の回りの清潔や生活環境について、自分の生活を見直すことを通して課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりできる。	毎日を健康に過ごすためには、一日の生活の仕方が深くかかわっていること、体を清潔に保ち、生活環境を整える必要があることを理解し、知識を身に付けている。

【「F 保健の(1) 毎日の生活と健康」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 健康に関する資料を見たり、自分の生活を振り返ったりして、課題を見つけようとしている。 教師や友達と共に、教科書などの資料や実験、フィールドワークで課題を調べようとしている。 健康な生活の仕方について、自分の考えや意見を言おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の健康な生活について、自分の生活を振り返り、よい点や問題点を見つけることができる。 毎日の健康な生活と保健活動とのかかわりについて教科書や実験結果などの資料を元に予想したり、関係を見つけたりすることができる。 毎日の健康な生活について、学習したことを自分の生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日を健康に過ごすために、食事、運動、休養および睡眠の調和のとれた生活を続けることを知っている。 毎日を健康に過ごすための体を清潔に保つ方法、換気や部屋の明るさの調節の仕方を知っている。 毎日を健康に過ごすために、学校では保健室の活動を初め様々な保健活動が行われていることを知っている。

第4学年

1 学年目標

- (1) 体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第4学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
体の発育・発達に関心をもち、自ら健康的な生活を送るため、進んで学習に取り組もうとする。	体の発育・発達について、課題の解決を目指して考え、判断している。	体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

「F 保健の(2)育ちゆく体とわたし」

【学習指導要領の内容】

ア 体は、年齢に伴って変化すること。また、体をよりよく発育・発達させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養および睡眠が必要であること。

イ 体は、思春期になると次第に大人に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

【「F 保健の(2)育ちゆく体とわたし」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
体の発育・発達について、進んで課題を見つけたり、課題を調べたり、わかったことを発表したり、友達の発表を真剣に聞いたりしようとしている。	体の発育・発達について、自分の成長を振り返りながら課題を設定し、これからの自分の生活を予想しながら、よりよい発育・発達を目指して解決の方法を考えたり、判断したりできる。	体の発育・発達の現象や思春期の変化を理解し、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方を理解し、知識を身に付けている。

【「F 保健の(2)育ちゆく体とわたし」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達について、今までの自分の成長を見つめながら、課題を見つけようとしている。 ・教科書などの資料を読んだりして課題について調べようとしている。 ・体の発育・発達について、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を言ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達について、自分の成長や資料などを元に問題点を見つげることができる。 ・体の発育・発達の仕方や食事、運動、休養及び運動について教科書などの資料を元に予想したり、関係を見つげることができる。 ・体の発育・発達や思春期の体の変化などについて、自分のことに当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達の一般的な現象や思春期の体の変化について知っている。 ・体の発育・発達、思春期の体の変化には個人差があることを知っている。 ・体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について知っている。

第5学年

1 学年目標

- (1) けがの防止について理解するとともに、簡単なけがの手当ができるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。
 (2) 心の健康について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第5学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心の健康やけがの防止について関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して考え、判断している。	心の健康及びけがの原因とその防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「G 保健の(1)けがの防止」

【学習指導要領の内容】

ア 交通事故、学校生活の事故などによるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや環境を安全に整えることが必要であること。

イ けがをしたときなどは、速やかに手当をする必要があること。また、簡単な手当ができること。

【「G 保健の(1)けがの防止」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
身近な生活におけるけがの原因やその防止、手当について関心をもち、進んで課題を見つけようとしたり、意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	身近な生活におけるけがの原因やその防止、簡単な手当について課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりできる。	身近な生活におけるけがの原因やその防止、手当について、課題解決を通して実践的に理解し、自分の生活に役立つ知識を身に付けている。

【「G 保健の(1)けがの防止」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・事故やけがについて話を聞き、その例を挙げたり、課題を見つけようとしている。 ・事故やけがの原因や防止の方法について、よりよい解決のために情報を集めたり、考えを出し合ったりしようとしている。 ・事故やけがの防止の方法について、友達の意見を聞いたり、自分の考えや意見を言ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やけががどんな原因で起こるかについて、自分たちの生活を振り返り、問題点を見つけることができる。 ・課題解決に向けて、具体的な生活場面や資料をもとに、けがの原因やその防止の方法を関連付けて整理することができる。 ・けがの原因やその防止について、自他の考えの違いやよさを見つけたり、自分の生活に当てはめたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの原因について、人の行動やまわりの環境がかかわっていることを知っている。 ・けがの原因と防ぎ方を関連付けて知っている。 ・簡単なけがの手当の意義や方法について知っている。

(2)「G 保健の(2)心の健康」

【学習指導要領の内容】

- ア 心は、いろいろな経験を通して、年齢とともに発達すること。
- イ 心と体は密接な関係にあり、互いに影響し合うこと。
- ウ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

【「G 保健の(2)心の健康」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方に関心をもち，進んで課題を見つけようとしたり，意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，課題を設定し，解決の方法を考えたり，判断したりできる。	心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，実践的に理解し，自分の生活に役立つ知識を身に付けている。

【「G 保健の(2)心の健康」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，自分の生活を振り返って課題を見つけようとしている。 ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，感じたことや考えたことを発表しようとしている。 ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，自分の考えや意見を言おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，自分を振り返りながら，問題点を見つけることができる。 ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，資料や友達の話をもとに予想したり，比べたりできる。 ・心の発達，心と体とのかかわり，不安や悩みへの対処の仕方について，学習したことを自分の生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心は，いろいろな生活経験をを通して，年齢とともに発達することを知っている。 ・心の状態が体に影響し，体の状態が心に影響を及ぼすことを知っている。 ・不安や悩みは誰でも経験することであり，その対処の仕方にはいろいろな方法があることを知っている。

第6学年

1 学年目標

(1) 病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第6学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
病気の予防について関心をもち、自ら健康的な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	病気の予防について、課題の解決を目指して考え、判断している。	健康の保持増進に必要な生活行動及び病気の起こり方とその予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

「G 保健の(3)病気の予防」

【学習指導要領の内容】

- ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわりあって起こること。
- イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。
- ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事や口腔の衛生など、望ましい生活習慣を身に付けることが必要であること。また、喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

【「G 保健の(3)病気の予防」の評価規準】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
病気の起こり方と予防の方法について関心をもち、進んで課題を見つけようとしていたり、意欲的に課題解決に取り組んだりしようとしている。	病気の起こり方や予防の方法について、課題を設定し、解決の方法を考えたり、判断したりできる。	病気の起こり方や予防の方法について、実践的に理解し、自分の生活に役立つ知識を身に付けている。

【「G 保健の(3)病気の予防」の評価規準の具体例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・病気の起こり方や予防の方法について、自分や身近な人の経験した病気の例などを元に課題を見つけようとしている。 ・病気の起こり方や予防の方法について、人に聞いたり、教科書などの資料を元にしたりして調べようとしている。 ・病気の起こり方や予防の方法について、調べたことや考えたことを発表したり、友達の意見を聞いたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の起こり方や予防の方法について、自分の経験や友達、家族など身近な人々の生活などを振り返り、問題点を見つめることができる。 ・病気の起こり方や予防の方法について、人に聞いたり、資料を元に予想したり、関係を見つめたりすることができる。 ・病気の起こり方や予防の方法について学習したことを、自分の生活に当てはめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわり合って起こることを知っている。 ・病原体が主な要因となって起こる病気とその予防の仕方について知っている。 ・生活習慣が主な要因となって起こる病気や、その予防の仕方、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への影響について知っている。

第3 単元の評価に関する事例

< 運動領域 >

ここでは、運動領域として、高学年（第5学年）の「器械運動」領域において、自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の工夫を行った事例「跳び箱運動」(事例1)を紹介する。

事例1 単元名

「跳び箱運動」(8時間)(第5学年 6月)

1 単元の目標

開脚跳び、かかえこみ跳び、台上前転とその発展技等の中から、できる跳び方でいろいろな跳び箱を跳び越したり、できそうな技に挑戦したりして楽しむことができるようにする。

2 単元の評価規準

【B 器械運動】

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
内容とのま評と価ま規り準	器械運動の楽しさや喜びを求めて進んで取り組もうとする。また、互いに協力して運動をしたり、器械・器具の安全な使い方に注意して運動をしたりしようとする。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方を工夫している。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の特性に応じた技能を身に付けている。
単元の評価規準	跳び箱運動の楽しさや喜びを求めて、自分の力に合った課題をもち、その解決に向かって、いろいろな向きの跳び箱を跳び越したり、新しい跳び越し方に挑戦したりして、進んで取り組もうとする。また、友達と励まし合って仲良く運動をしたり、跳び箱や踏み切り板などの安全を確かめた行動をとろうとしたりする。	自分の力に合った課題をもち、その解決を目指して、学習カードや補助具を活用して練習の場や練習の仕方を選んでいく。	自分の力に合った技に取り組み、安定した動作での支持跳び越しができる。また、自分の力に合った場で新しい技に挑戦し、支持跳び越しができる。
学習活動における具体の評価規準	<p>< 1・2時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今できる技の確認に向かって進んで取り組もうとする。 今できる技の確認に向かって友達と励まし合って運動しようとする。 跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする。 <p>< 3～8時間目 ></p> <p>課題の解決に向かって進んで取り組み、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする。友達と励まし合って運動をしたり、協力して跳び箱や踏み切り板などの準備・片付けをしたりしようとする。跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする。</p>	<p>< 1・2時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今できる技が分かる。 学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について大方の見通しをもっている。 <p>< 3～8時間目 ></p> <p>自分の力に合った技を選んでいく。学習カードや補助具を活用して、自分に適した練習の場や練習の仕方を選んでいく。技のポイントや自分の課題について考え自分のめあてがもっている。</p>	<p>< 1・2時間目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 今もっている力の技が安定した動作でできる。 <p>< 3～8時間目 ></p> <p>(めあて)自分の力に合った技に取り組み、安定した動作での支持跳び越しをしたり、集団での易しい活動をしたりすることができる。 (めあて)自分の力に合った場で新しい技に挑戦し、支持跳び越しができる。</p>

3 指導と評価の計画

時間	学習のねらいと活動	学習活動における具体的評価規準	評価方法
1 2	<p>学習活動（オリエンテーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや道すじを知る。 ・グルーピングをし、役割分担をする。 ・安全についての約束やマナーについて確認する。 ・学習カードや補助具の活用の仕方について理解する。 ・既習の跳び箱運動におけるできる技を確認する。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今できる技の確認に向かって進んで取り組もうとする。 ・今できる技の確認に向かって友達と励まし合って運動をしようとする。 ・跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今できる技が分かる。 ・学習のねらいや道すじを理解し、学習の進め方について大方の見通しをもっている。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今もっている力の技が安定した動作でできる。 	<p>質問紙 (アンケート)</p> <p>観察</p> <p>聞き取り</p>
3 4 5 6 7 8	<p>学習活動</p> <p>めあて 得意な跳び方や今できる跳び方で、いろいろな向きや高さの跳び箱を跳び越したり、集団で易しい活動をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して跳び箱や踏み切り板などの準備をし、安全な使い方を確認する。 <p>めあて できそうな跳び方や上手になりたい跳び方に、自分の力に合った場で挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して跳び箱や踏み切り板などの準備をし、安全な使い方を確認する。 ・自分の力に合った場で新しい技に挑戦する。 (1)易しく工夫した場で (2)普通の跳び箱の場で ・試技を振り返り次の試技を考えたり、友達のよい動きを見つれたりする。 ・協力して跳び箱や踏み切り板などの片付けをする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>Aの状況を実現していると判断した子供の具体的な状況の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向かって進んで取り組み、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする。 ・友達と励まし合って運動をしたり、協力して跳び箱や踏み切り板などの準備・片付けをしたりしようとする。 ・跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った技を選んでいる。 ・学習カードや補助具を活用して、自分に適した練習の場や練習の仕方を選んでいる。 ・技のポイントや自分の課題について考え自分のめあてがもっている。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(めあて)自分の力に合った技に取り組み、安定した動作での支持跳び越しをしたり、集団での易しい活動をしたりすることができる。 ・(めあて)自分の力に合った場で新しい技に挑戦し、支持跳び越しができる。 	<p>観察</p> <p>学習カード</p>

学習活動における具体的評価規準については、示された時間内に見るべき事項を示したものであり、毎時間全ての事項を見るというものではない。
また、丸数字で示された「関心・意欲・態度」及び「思考・判断」の評価規準については、学習過程の「めあて」「めあて」において、それぞれ1回は評価するものとする。

4 観点別評価の進め方

(1) 1・2時間目の学習活動における具体の評価規準について

1・2時間目のオリエンテーションについては、これからの学習の道すじを知ることや既習の技を確認することなどを通じ本単元の授業を効果的に進めることができるようにすることが主なねらいであると考え、本事例においては学習活動における具体の評価規準に照らして「おおむね満足できる状況」であるかどうかの確認(チェック)だけを行うものとした。

したがって、本事例のオリエンテーションにおける評価は、単元を総括する際には使用しないこととする。

(2) 3～8時間目の学習活動における具体の評価規準について

学習活動における具体の評価規準に照らし「十分満足できる状況(A)」か、「おおむね満足できる状況(B)」か、「努力を要する状況(C)」かを判断した。なお、「十分満足できる状況(A)」と判断する手がかりについては、「3 指導と評価の計画」の表中「Aの状況を実現していると判断した子供の具体的な状況の例」として示している。

(3) 「努力を要する状況(C)」の評価の子供への指導の手だて

「努力を要する状況」と評価した子供に対しては、その原因をしっかりと教師が把握するとともに、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」の3つの評価の観点の観点の相互に関連していることを踏まえて、以下のような手だてを講ずることが必要になると考える。

「運動への関心・意欲・態度」については以下の3つの視点に整理し、指導の手だてを探ることとする。

「関心・意欲」が乏しい子供に対しては、易しい運動を取り上げるとともに、子供が今もっている力で十分楽しむことができるようにすることが必要である。また、跳び箱を怖がることによって関心・意欲を失っている子供に対しては、教師が補助者となり安心感を与えてやることが求められる。

協力・公正などのいわゆる「社会的態度」に課題のある子供に対しては、力を合わせて運動をすることのすばらしさを具体的に感じ取れるようにしたり、できないことを注意するよりも、少しでも努力している点を認めてほめたりすることにより役割分担を果たせるようにすることが大切である。

「安全に対する態度」に課題のある子供に対しては、危険な行動をとることによる事故やケガの発生について具体的によく自覚させ、最低限守るべき約束事を教師が子供と一緒にすることが効果的である。

「運動についての思考・判断」では、子供一人一人の課題が大きく異なるという前提に立った指導が必要である。例えば、子供に示している跳び箱運動の学習カードが、多様な子供たちの課題に十分応えているものであるかどうか検証してみる必要がある。また、学習カードへの教師のコメントにおいても、課題解決に向けて、子供が練習の場や練習の仕方を選ぶことができるようこまめにフォローアップすることが必要と考える。

「運動の技能」の低い子供には、いきなりできない技に挑戦させるのではなく、易しい技をじっくり体験させ、跳び箱運動の楽しさや喜びを十分味わわせることが大切である。また、適切な練習の場や練習の仕方を工夫させることによって技能は上達するものである。子供の動きをしっかりと観察し、よい動きを見過ごすことなく肯定的な言葉掛けを行ったり、技能のポイントを何度か子供と確認し合いながら指導したりすることが、子供一人一人の技能を伸ばすことにつながっていくものと考えられる。

5 観点別評価の総括

本単元では単元の評価規準として3つ示しているが、ここでは「関心・意欲・態度」について例示する。
なお、「運動への関心・意欲・態度」は、4の(3)で述べたように、意欲や楽しさ体験、いわゆる社会的態度、安全に対する態度の大きく3つに分かれており、これは学習活動における具体の評価規準の
に対応している。

(1) 数値への置きかえ

4の(2)で示した3段階の評価については、「十分満足できる状況(A)」 3点、「おおむね満足できる状況(B)」 2点、「努力を要する状況(C)」 1点と数値へ置きかえた。

そして、単元における観点別学習状況の評価の総括としては、学習活動における具体の評価規準のAとBが同数(例えば、A A A B B B)からBとCが同数(例えば、B B B C C C)までを「B」、Aが過半数を占めた場合を「A」、Cが過半数を占めた場合を「C」とするとの考え方に基づき、学習活動における具体の評価規準の平均で、1.5以上2.5以下を「B」、2.5より大きいものを「A」、1.5未満を「C」とした。

(2) Y君の評価

(めあて)

課題の解決に向かって進んで取り組み、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする..... A (3点)
友達と励まし合って運動をしたり、協力して跳び箱や踏み切り板などの準備・片付け
をしたりしようとする..... B (2点)
跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする..... B (2点)

(めあて)

課題の解決に向かって進んで取り組み、跳び箱運動の楽しさや喜びを味わおうとする..... A (3点)
友達と励まし合って運動をしたり、協力して跳び箱や踏み切り板などの準備・片付け
をしたりしようとする..... A (3点)
跳び箱や踏み切り板などの安全な使い方や安全に運動をするための約束を守ろうとする..... B (2点)

(3) 平均値の算出と単元の総括

$$\left(\frac{3 + 2 + 2 + 3 + 3 + 2}{6} \right) \div 6 = \underline{2.5} \quad (2) \text{より} \text{「B」} \text{となる。}$$

めあて めあて

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

保健領域

ここでは、第3学年「毎日の生活と健康」(事例2)を紹介する。

事例2：単元名 「毎日の生活と健康」(4時間)
第3学年 6月

1 単元の目標

- (1) 一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境，学校保健活動について，進んで課題を見つけたり，課題を調べたり，わかったことを発表したり，友達の発表を真剣に聞いたりしようとしている。
- (2) 一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境について，自分の生活を見なおすことを通して課題を設定したり，適切な解決の方法を考えたり，判断したりしている。
- (3) 毎日を健康に過ごすためには，一日の生活の仕方が深くかかわっていること，体を清潔に保ち，生活環境を整える必要があることが分かる。

2 単元の評価規準

「毎日の生活と健康」

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
内容 ごの とま の と評 ま価 り規 準	一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境，学校保健活動について，進んで課題を見つけたり，課題を調べたり，わかったことを発表したり，友達の発表を真剣に聞いたりしようとしている。	一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境について，自分の生活を見なおすことを通して課題を設定したり，適切な解決の方法を考えたり，判断したりしている。	毎日を健康に過ごすためには，一日の生活の仕方が深くかかわっていること，体を清潔に保ち，生活環境を整える必要があることを理解し，知識を身に付けている。
単 元 の 評 価 規 準	一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境，学校保健活動について，進んで課題を見つけたり，課題を調べたり，わかったことを発表したり，友達の発表を真剣に聞いたりしようとしている。	一日の生活の仕方，身の回りの清潔や生活環境について，自分の生活を見なおすことを通して課題を設定したり，適切な解決の方法を考えたり，判断したりしている。	毎日を健康に過ごすためには，一日の生活の仕方が深くかかわっていること，体を清潔に保ち，生活環境を整える必要があることを理解し，知識を身に付けている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準	健康に関する資料を見たり，自分の生活を振り返ったりして，課題を見つけようとしている。 教師や友達と共に，教科書などの資料や実験，フィールドワークで課題を調べようとしている。 健康な生活の仕方について，自分の考えや意見を言おうとしている。	毎日の健康な生活について，自分の生活を振り返り，よい点や問題点を見つけることができる。 自分の健康と生活の仕方とのかわりについて，教科書や実験結果などの資料を元に，予想したり，関係を見つけたりすることができる。 毎日の健康な生活について，学習したことを自分の生活に当てはめることができる。	毎日を健康に過ごすために，食事，運動，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが大切であることを知っている。 毎日を健康に過ごすための体を清潔に保つ方法，よい換気や部屋の明るさの調節の仕方を知っている。 毎日を健康に過ごすために，学校では保健室の活動をはじめ様々な保健活動が行われていることを知っている。

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規 準との関連	評価方法等
1 ・ 2	<p>ねらい</p> <p>毎日を健康に過ごすためには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが大切であることを理解し、自分の生活を振り返りながら進んで課題を見つけ、課題解決を目指して考えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習の見通しを持つ。 2 食事、運動、休養及び睡眠が、毎日の健康にどのように関係しているのか考える。 3 自分の生活を振り返り、自分のよい点や問題点を考えとともに、調べる方法について考える。 4 課題を調べる。 5 調べたことをもとに、健康な生活の仕方についてグループで話し合う。 6 学習のまとめをする。 	<p>アー</p> <p>イー</p> <p>アー イー ウー</p>	<p>発言の様子の観察 ワークシート1 インタビューカード</p> <p>話し合いの様子の観察 ワークシート2 ワークシート2</p>
3	<p>ねらい</p> <p>毎日を健康に過ごすために、体の清潔を保つことや生活環境を整えることが必要であることを理解するとともに、自分の生活を振り返り、課題解決を目指して学習に取り組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体を清潔に保ったり、生活環境を整えたりするにはどんなことをしたらよいのか知っていることを発表する。 2 毎日を健康に過ごすため、生活環境を整えたり、体を清潔に保ったりすることがなぜ大切であるか話し合う。 3 換気の実験をし、その大切さと方法について考える。 4 体の清潔を保つことや換気等の生活環境を整えることについてワークシートで自分の生活を振り返り、自分のよい点や問題点について発表する。 5 学習のまとめをする。 	<p>イー</p> <p>ウー</p> <p>ウー</p>	<p>実験の様子の観察、ワークシート3</p> <p>発言の内容、ワークシート3</p> <p>ワークシート3</p>
4	<p>ねらい</p> <p>学校保健活動に関心を持ち、健康な学校生活を送る上で必要な保健室の働きを進んで調べ、健康な生活をするためには様々な人が保健活動を行っていることに気づくことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保健室の働きについて予想する。 2 保健室を調べる。 3 調べたことを発表する。 4 養護教諭や保健室以外に健康について考えてくれている人やそれらの人が取り組んでいる保健活動について考える。 	<p>アー</p> <p>ウー</p>	<p>フィールドワークの様子の観察</p> <p>発言の内容、ワークシート4</p>

4 観点別評価の進め方

(1) 基本的な考え方

保健学習の導入にあたる本単元は、これから子どもたちが楽しく主体的に学習に取り組めるきっかけとなるように評価を進める。本単元には毎日の生活の仕方、体の清潔と生活環境、学校保健活動の3つの内容が含まれている。基本的には、単元を通して学習活動における具体的評価規準にあげた9つの評価を実施していくが、単元全体が4時間と限りがあるため、取り上げる題材、授業の進め方、学習形態等によって選択したり、重点化を図るなどの工夫をする必要がある。

「十分満足できる」状況を実現していると判断した子どもの具体的な例

ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
<p>自分で健康に関する資料を集めたり、自分の生活を振り返ったりして課題を見つけようとしている。</p> <p>毎日を健康に過ごすため、課題を解決するための情報を自分で集めたり、調べたりしようとしている。</p> <p>友達の健康に関する発言を真剣に聞いて意見を言ったり、大切なことをメモしたりして自分の考えをまとめようとしている。</p>	<p>毎日の健康な生活について、自分の生活のよさや問題点に気づき、適切な課題を持つことができる。</p> <p>自分の健康と生活の仕方とのかかわりについて、予想し、見つけた関係を課題解決に役立てることができる。</p> <p>毎日の健康な生活について学習したことを、自分や学級の生活に当てはめることができる。</p>	<p>毎日を健康に過ごすために、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが大切であることを自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>毎日を健康に過ごすための体を清潔に保つ方法、よい換気や部屋の明るさの調節の仕方を自分の言葉で具体的に説明できる。</p> <p>毎日を健康に過ごすために、学校では保健室の活動をはじめ様々な保健活動が行われていることを自分の言葉で具体的に説明できる。</p>

(2) 評価の方法

一人一人をより多面的に見取り、評価するためには多様な評価方法を工夫し、組み合わせる必要がある。発言が活発な3年生は、グループや学級全体での話し合いや意見交換などが評価の手がかりとなるため座席表を活用し、発言の様子の観察を記録できるように心掛けた。また、一人一人の子どもを評価するために、ワークシートを工夫し、発言の様子の観察と組み合わせた。その際、子どもが自分の考えをまとめ、ワークシートに記入する時間を十分に確保する必要がある。

(3) 努力を要すると評価した子どもへの指導の手だて

努力を要すると評価した子どもについては、その子どもの状況に即して、より具体的な資料を提示したり、学習の進め方について助言したり、子どもと共に具体的な生活場面を想起したりして学習が円滑に進められるようにする。

「健康・安全への関心・意欲・態度」について

例えば、食事、運動、休養及び睡眠、換気や体の清潔の重要性などについて、自分の生活を振り返り、問題を見つけようとしたり、調べたり使用としない子どもについては、その子の具体的な生活を振り返り、問題を見つけようとしたり、調べたりしようとする子どもについては、その子の具体的な生活を思い起こさせ、ワークシートやインタビューカードを使って、一緒に考えたり、励ましたりして関心や意欲を起こさせ、学習に進んで取り組むようにする必要がある。

「健康・安全についての思考・判断」について

例えば、食事、運動、休養及び睡眠、換気、体の清潔などについて、自分の生活を振り返ることができず、良い点や問題点を見つけることができない子どもについては、ワークシートやインタビューカードを使って、元気で健康だと感じる時とそうでない時を思い起こさせ、教師と一緒に考えるようにして問題点を見つけることができるようにする必要がある。

「健康・安全への知識・理解」について

例えば、食事、運動、休養及び睡眠の調和、換気や体の清潔の重要性などについて、用語をあげられ程度に止まっている子どもについては、ワークシートをもう一度見直させ、確認することによって再度整理し、子どもの理解の程度に応じて補足説明をして理解できるようにする必要がある。

5 評価を進める上での留意事項

- (1) 学習活動における具体の評価規準に挙げた9つを毎時間すべて評価することは困難であり、各時の学習内容等に応じて選択し、単元終了までにバランスよく評価する。
- (2) 全て教師の観察による評価ではなく、ワークシート等を活用し、指導と評価がゆとりを持って実施できるよう工夫する。

6 観点別評価の総括

本単元では、学習活動における具体の評価規準に照らし、A「十分満足」、B「おおむね満足」、C「努力を要する」により評価を行い、Aが半数を超える場合はA、Cが半数を超える場合はC、それ以外はBとする考え方に立って総括を行った。

なお、体育では、保健領域と運動領域のバランスを考え、適切に評価できるように配慮する必要がある。

この外にも、単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。

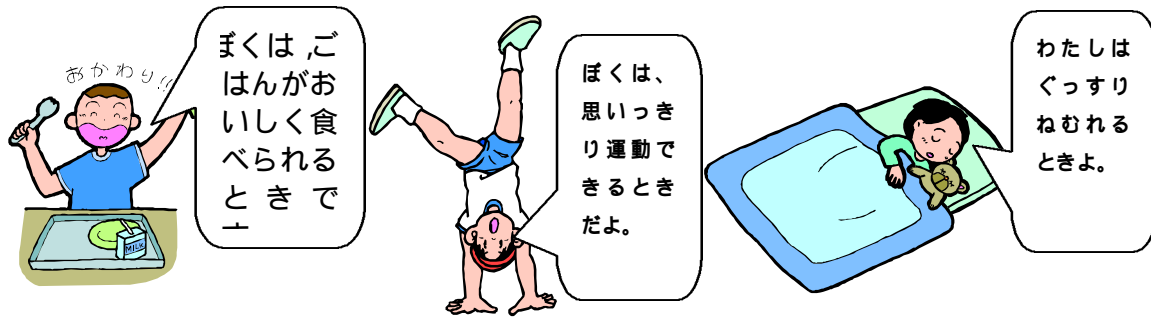
氏名	観点	学習活動における具体的評価規準	第1時	第2時	第3時	第4時	単元の評価
ア 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度		健康に関する資料を見たり、自分の生活を振り返ったりして、課題を見つけようとしている。	A				A
		教師や友達と共に、教科書などの資料や実験、フィールドワークで課題を調べようとしている。				A	
		健康な生活の仕方について、友達の健康に関する意見を聞いたり、自分の考えや意見を言おうとしたりしている。		B			
イ 思 考 ・ 判 断		毎日の健康な生活について、自分の生活を振り返り、よい点や問題点を見つけることができる。	A				B
		自分の健康と生活の仕方とのかかわりについて教科書や実験結果などの資料を元に、予想したり、関係を見つけたりすることができる。			B		
		毎日の健康な生活について、学習したことを自分の生活に当てはめて振り返ることができる。		B			
ウ 知 識 ・ 理 解		毎日を健康に過ごすために、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが大切であることを知っている。		B			B
		毎日を健康に過ごすための体を清潔に保つ方法、よい換気や部屋の明るさの調節の仕方を知っている。			B		
		毎日を健康に過ごすために、学校では保健室の活動をはじめ様々な保健活動が行われていることを知っている。				B	

「 - 」は、その時間で評価しない。

ワークシート1

名前()

健康かんさつするとき、「元気です。」と答えることがありますね。どんなときに元気だと感じるのでしょうか。3人のお友だちに聞いてみました。



1 さて、みなさんはどんなときですか。

--

2 3人の考えを実行するにはどうしたらいいでしょう。

ごはんをおいしく	おもいっきり運動	ぐっすりねむる

3 元気にすごすために食事、運動、すいみんはばらばらでいいのかな。

--

インタビューカード 名前 ()

きのうの生活をふりかえり，できたところに色をぬりましょう。

ぐっすりねむる	早くねる	お風呂に入る	夕食を食べる	外で思いっきり遊ぶ	昼休みは休む	給食を食べる	休み時間に遊ぶ	朝食を食べる	朝の体そう	早く起きる

自分の生活をよりよくするためにどうしたらいいでしょう。

問題

問題をかいつくすためにどうしたらよいか，いろいろな人に聞いてみましょう。

聞いた人 ()

わかったこと

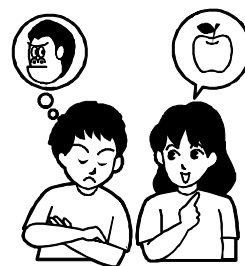
聞いた人 ()

わかったこと

ワークシート2 名前 ()

問題

問題をかいつするほうほう



これからの目標

はげまし、アドバイスコーナー

1 今の自分にあてはまるものに をつけましょう。

・教室や家で、まどをあけている。	
・本を読むとき、電気をつけている。	
・手をあらっている。	
・ハンカチを持ってきている。	

なぜ、そんなことをするのかな。



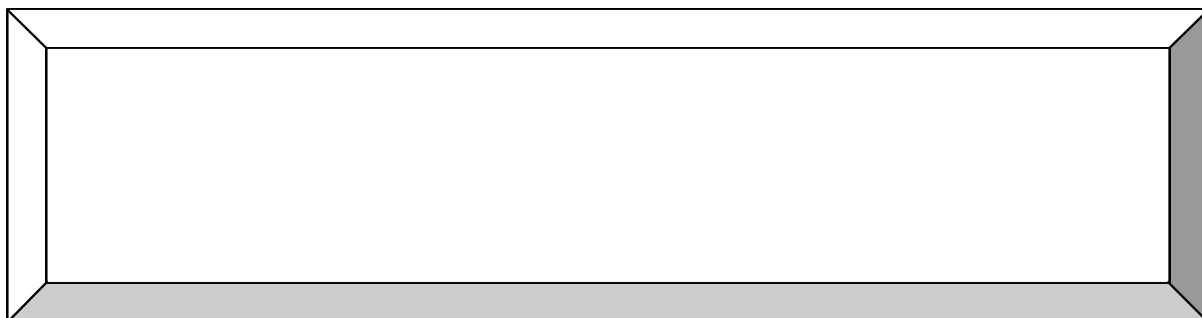
2 かん気のじっけんをして、わかったことをメモしましょう。

3 今の自分にあてはまるものに をつけましょう。

・教室や家で、まどをいくつかあけて、空気の入れかえをしている。	
・本を読むとき、暗いときは電気をつけ、日光が本にあたるときはカーテンをしている。	
・せっけんをつけて、つけ根からつめの先まででいねいに手をあらっている。	
・毎日せんたくをしたハンカチを持ってきている。	

1と比べて気がついたことを書きましょう。

4 これまでの学習から、これからの自分のめあてを書いてみましょう。



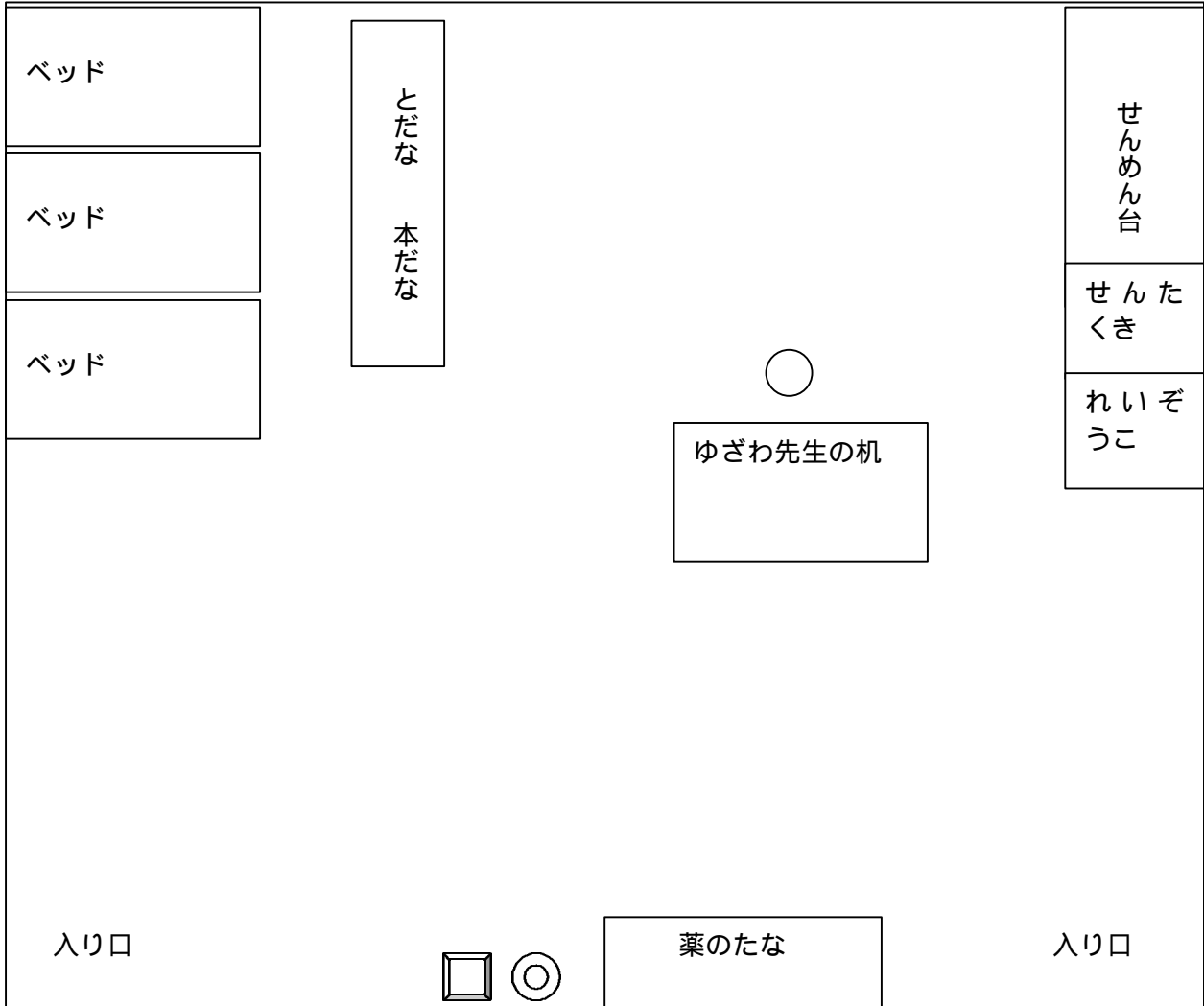
5 今日の学習で分かったことやかんそうを書きましょう。

ワークシート4

名前()

1 ほけん室はどんなことをするところでしょうか。

2 ほけん室でしらべたことをふきだして書いてみましょう。



3 ほけん室の先生にインタビューして、わかったことを書きましょう。

4 ほけん室の先生のほかに、みんなのけんこうのために働いてくれている人はいるでしょうか。